

「納めるものである！！」 ～あなたは騙されていませんか？～

創世記3：1～12

聖書の創世記の記事に次のような描写があります。神様は天地を創造され、そして人を創造されました。その初めの人であるアダムとエバが蛇に騙されてしまいます。神様はエデンの園の中央にある木の実以外は、どんな実も食べていいと語られました。しかし、蛇はエバに「本当にそう神様は言ったの？」と言いました。創世記 3: 1さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」エバは会話しなくていい蛇と、会話をしてしまっています。「創世記 3: 2～5女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べたよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ。』と仰せになりました。」そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」蛇はエバが興味あるようなことを話しました。悪魔の誘惑は魚を釣る様なことです。針を完全に隠すようにエサを付けます。そして、生きてるように思わせて釣ります。そのように悪魔も、心を開くようにさせて私達を騙すのです。大丈夫と思われる私たち、クリスチャンも気を抜くと、騙されてしまいます。神様は「死ぬといけなから」と語られました。「死んでしまう」という断定ではないのです。この事から伺えることは、悔い改めれば別の結果が用意されていたことがわかります。神様が食べてはいけないと語られた実を食べたら、その時死んでしまうのではなく、食べてしまった後、神様に「ごめんなさい」出来ずに、人のせいにしてしまうのを、神様は知っていたのです。アダムとエバが、もし悔い改めて「ごめんなさい」が出来たら赦されて別の結果を受け取ることができたのです。しかし、アダムとエバは食べるのに良かった、その実を食べてしまいました。その後人のせいにしまい、神様に「ごめんなさい」が出来ませんでした。そして今の時代に生きている私たちはアダムとエバの原罪を受け継いでいるのです。ですから、私たちは簡単にごめんなさいをすることが出来ません。アダムとエバは「ごめんなさい」出来なかったので、楽園であるエデンの園から出なくてはいけなくなりました。その後、辛い思いをしながら生活することになりました。私たちは色々なメッセージを聞きますが、大事なことを忘れて、記憶が置き換えられてしまいます。私たちも「ごめんなさい」出来ずに、今まであの時もこうだったと思ってしまう、人のせいにしまいます。騙されてしまっている訳です。ごめんなさい出来ないで、小さな一箇所を出して、人を責めてしまいます。本来は素晴らしいことを見られるはずなのに、一箇所にとらわれ木を見て森を見なくなってしまう。自分が見えなくなるような、冷静でないときや調子が良い時うまくいっている時に、悪魔の誘惑がありあます。だから気を付けなくてははいけません。欲から罪にそして死に至ってしまいます。ヤコブ 1:15「欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」悪魔の誘惑によって、正しい記憶を置き換えられてしまいます。そして大事な事や問題を忘れてしまいます。色々なことがあると、初めの問題がわからなくなってしまう。もし、問題が起こった時すぐに悪かった事を認める事ができれば、本当の問題と他の問題を置き換えてしまうこともなくなります。初めは小さな問題でもこじれてしまえば大問題になってしまいます。だから「ごめんなさい」をする事がとっても大切になります。騙されないために①行動変化に注意！本質に目を向ける②相手を間違えない悪魔は問題をすり替えます。人は物を責めるのではなく、人を責めるようにしてしまいます。悪魔は物事の本質に目を向けられなくさせます。ドロボーは物を壊したりするのではなく、静かに入って気付かないように奪って行きます。悪魔も同じようなことをします。「エペソ6:12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」私たちは都合が悪くなると、人のせいにします。そして「またか」と思い、繰り返されると更に人を責めます。教会ではそうではありませんが、家に帰ったりすると、記憶が置き換えられてしまい、「お前はダメだ」と思わされてしまいます。そして大事なものを奪われてしまっています。教会は奪われた大切なものを取り返すためにもあります。盗まれていることを教会では知る事が出来ます。そして、なぜそう間違っただのか知る必要があります。教会が仲違いしたら何が無くなるかを知りましょう。仲違いしたら愛を実践している事を台無しにしてしまいます。キリストの十字架が無駄になってしまいます。悪魔はだましまくりです。だから気を付けなくてははいけません。③誘惑に御言葉で勝利！！愛と情の違いアダムとエバの子供たちで、カインとアベルという人たちがいました。カインとアベルは神様に捧げ物をしました。アベルは羊の中の最高の物を、カインは一番良い物という訳ではなく、収穫した作物を捧げました。神様はカインの捧げものでも無く、アベルの捧げものを神様は喜ばれました。しかし神様はカインとアベルの物を比較したではありません。でも人間は比較してしまい、カインはアベルを殺してしまいました。「創世記4:7 あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」カインは一番良いものを、取りに帰れば良かったのにしませんでした。「これでいいでしょ」と思いました。素直に謝ればよかったのです。神様は私たちに感情を制御するように語られています。神様は心を持ってくるように語られました。問題を置き換えてはいけません。人を責めるのではなく「今日はダメだったね」と神様は語られています。つぎ、気を付けるように語られています。私たちの感情はツツツ湧いてきます。そういえばと思ってしまう。あいつが居なければいいのにと思ってしまう。そして殺してしまいます。だからそのような思いから勝利しないといけません。旧約聖書の中に、サムソンというとても力がある人がいました。サムソンは何度も失敗し、惑わされましたが、最後正しく祈って、神様の為に正しく行動しています。サムソンのように何度失敗しても、神様の前に出ることが出来れば赦されます。また正しいことが何なのか？を神様によるならば知る事が出来ます。神様を見る事が出来れば、神様は良い神様なので、神様は良い事しかしません。神様が私たちの道を外させたのではなく、道を外したのは私たちです。神様にあるなら間違っただ道に、二度と戻らないようにして下さい。間違っているなら元に戻る道を示して下さい。騙されている事を改めないと大問題になります。忘れてはいけません。そのことを改めないといけません。絶対に私達にとって必要なことは語られています。しかし悪魔のささやきによって置き換えられてしまいます。悪魔はいつでも騙そうとします。日曜日のメッセージの中で、あなたにとって必要なことが語られます。その事に耳を傾けていき、受け取っていきましょう。またどのような事に騙されているか？を知っていきましょう。そして間違っていたら神様の道に戻って正しく歩いていきましょう。(要約者：渡辺将宏)